

ガンリン携帯缶

YR-20, YR-10, YR-5, YB-20

取扱説明書

ご使用前に必ずお読みください!



この度は YAZAWA ガソリン携帯缶をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。
本製品を正しくお使い頂くために、この取扱説明書をよくお読みください。
また、この取扱説明書は読み終わりましたも大切に保管していただき、必要に応じてお読み返してください。

重要

ガンリンは揮発性の高い危険物です。下記の要綱は必ず守ってください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡又は重傷を負う可能性が想定される内容、及び物的（車両等）損害の発生も想定される内容を示しています。

- 各容器の規定容量以上は絶対に入れないで下さい。
- ガンリン携帯缶は、給油口が上向きになるように常に平らな場所に置いてください。
- ガンリン漏れ防止の為、キャップ、エア調整ネジは最後まで確実に締め付けてください。
- ガンリン以外の灯油、軽油、混合油を缶に入れる場合には、必ず付属のシールを缶の目立つ場所に貼り付け、入れ間違いの無いよう十分注意して下さい。又、それ以外の物の使用は、塗装、パッキン材劣化、サビの原因となりますので、使用しないで下さい。
- タンクキャップを外すときは、まずエア調整ネジをゆるめ、缶内の圧力を調整してからタンクキャップを取り外して下さい。タンクキャップを一気に外しますと、ガンリンの噴出し、破裂によるキャップの飛び出し等大変危険です!
- ガンリン携帯缶を携帯、移動した場合には、先ずエア調整ネジをゆるめ、ガンリン携帯缶内の圧力を調整してから、再びエア調整ネジを確実に締めてください。
- タンクキャップ、エア調整ネジ、給油ノズルのパッキンが劣化したり、破損した場合には油漏れによる危険がありますので、部品を交換して下さい。
- ガンリンの長期保管は缶の内部が錆びる原因になります。錆びている場合は使用を中止してください。
- 内容物の有無に関わらず、直射日光が当たる場所、火気の近くなど高温になる場所を避けた安全な場所で保管して下さい。変形や破裂、火災の原因となります。
- ガンリン携帯缶は使用環境、使用状況等により錆びが発生する場合があります。ご使用前に給油口よりガンリン携帯缶内部の状況を確認し、錆び等異常が発生している場合は使用しないでください。
- 誤った使用方法、火災、地震、水害、その他天災地変、公害、塩害等による故障及び損傷については如何なる責任も負いかねます。又、ガンリン以外のシンナーや水等の使用は、塗装、パッキン材劣化、錆びの原因となりますので、使用を避けてください。
- エンジン等が付いているものに給油するときは、引火する恐れがあるので、必ずエンジン停止、スイッチを切ってから給油して下さい。

- ガンリン携帯缶使用前には必ず静電気を除去してください。人体に蓄積した静電気で引火し重大な事故が起こる場合があります。
- 給油の際、周りに火気が無い事を十分確認して下さい。火災の原因になります。
- 雨や雪のあたる場所や湿気が多い場所を避けて保管してください。さびの原因となります。
- タンクキャップ、エア調整ネジを確実に締め、常に平らな場所に保管してください。
- 長期間使用しなかった場合には、ガンリン缶本体、各々の部品に劣化や破損が無いことを確認した後、使用して下さい。
- ガンリン缶本体にサビや劣化、破損がみられる場合には、直ちに使用を中止して下さい。
- 誤った使用方法、火災、地震、水害、その他天災地変、公害、塩害などによる故障や損傷については如何なる責任も負いかねます。
- キャップ、ノズルの開閉時には、手袋を着用し指などをはさまないように十分注意してください。
- 車などに搭載して移動する場合には、必ずポリエチレンの袋や受け皿に置き、しっかりと固定されていることを確認して下さい。
- ガンリン等が車体に付着した場合は、ただちにウエス等で拭き取ってください。
- 誤って皮膚に付いた場合は、直ちに石鹸等で十分に洗浄し、異常があれば医師の診察を受けてください。
- 屋内、車内、或いは、周辺を汚す恐れのある場所での給油には、給油ノズルが確実にねじ込まれていることを確認し、万が一、こぼれても周辺が汚れないように、又は、人体、周辺に危険を及ぼさない処置をした上で、ご使用ください。
- 長期間使用しなかった場合には、ガンリン携帯缶本体、キャップ、給油ノズルを点検し、それぞれの部品に異常がないか確認した後、使用してください。
- お車・発電機等の給油口に、勢いよくガンリンを入れると吹きこぼれる場合があるので慎重に入れてください。
- 給油ノズル、パッキン、外周ゴムは消耗品です。ご使用前に劣化していないか確認し、劣化が見られる場合は交換してください。



取扱い注意 取扱い時、注意する内容を示しています。

- ガンリン携帯缶内部に錆び止め剤を吹き付けていますが、使用上には問題ありません。
- 空の状態でも長期保管する場合にはエア調整ネジを少しゆるめて下さい。
- ガンリン給油の際、こぼれたガンリンが外周ゴムのすき間に入り、床等を濡らす恐れもありますので、すぐに拭き取ってください。
- ガンリン携帯缶にガンリンが付着した場合、色落ちする恐れがありますので、すぐに拭き取ってください。
- 缶を給油口が上向きになるよう平らな場所に置いて下さい。

- エア調整ネジをゆるめ、缶内部の圧力を調整してからタンクキャップを取り外して下さい。
- 給油ノズルを確実に取り付け、ノズルを注油する方向に向け、缶をしっかりと持って注油して下さい。
- 使用後はノズルを外してタンクキャップ、エア調整ネジを確実に締めて下さい。
- 使用後は缶を傾け、タンクキャップから漏れないことを確認して下さい。
- 使用後は給油ノズルをよく乾かしたのち、ガンリン携帯缶天面のノズル止めにはめ込んで下さい。

給油時及び使用後の注意事項

使用する前に準備する物:ウエス、手袋(車載する場合はトレイ、ポリ袋)

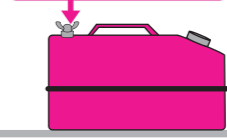
- ①ガンリンは非常に危険な液体です。給油前に周囲の安全を必ず確認してください。給油されるお車・発電機等のエンジンを切ります。特に発電機や草刈り機等はエンジンを冷ましてください。
※静電気にはご注意ください。
- ②傾きのない平らな地面に置き、必ずエア調整ネジで内部の圧力を調整してください。
- ③ゆっくりとキャップをはずし、給油ノズルを取り付けしっかりしめてください。こぼしたり、人体に付着しないよう注意深く、慎重に給油してください。
※万が一の為、手袋等をはめることをおすすめします。

エンジンストップ



警告
内部の圧力を調整せずに給油キャップを開けると中身がふき出る恐れがあり非常に危険です。必ず圧力を調整してください。

ゆっくりと圧力を調整



- ④給油後はウエス等できれいに拭き取ってください。
 - ⑤次回使用する際は、下記の手順を行い使用してください。
- | 中身がある場合 | 中身がない場合 |
|---|---|
| <p>使用前に必ずエア調整ネジで内部の圧力を調整してください。
※圧力を調整時も火気厳禁です。</p> | <p>給油前に、パッキン・キャップ・エア調整ネジ・給油ノズル・本体に損傷、内部に錆び・異常等がないか確認してください。劣化部品(特にパッキン等)はお取替えの上ご使用ください。</p> |



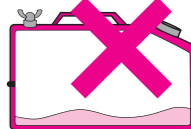
注意
ガンリンにも水分は含まれています。ガンリンの長期保管は缶の内部が錆び、損傷する原因になり、缶が使用できなくなります。



ガンリンも劣化します。長期保管したガンリンはエンジンに悪影響を与える恐れがありますので使用しないでください。



少量のガンリンを残さないでください。ガンリンが気化し、内圧の変化で缶が変形・亀裂する恐れがあります。



ガンリンスタンドでガンリンや軽油を容器で購入する際の注意事項

<h2>NG</h2> <p>セルフスタンドでは入れることはできません</p>		<h2>OK</h2> <p>従業員のいるスタンドで入れてもらいましょう</p>	
---	--	--	--

■ガンリン(軽油など)の保管とその他の注意事項

- ガンリンは、火災の発生危険が極めて高く、火災が発生すると爆発的に延焼拡大する為、ガンリンを容器に入れて保管することは極力控えてください。
- 軽油は、大量に保管すると、火災の発生危険が高まるとともに、火災が発生すると、大規模な火災となる危険性が高い為、大量保管することは極力控えてください。
- ガンリン(軽油)は引火性(着火性)の高い危険物です。火の気が無く、温度変化のない、直射日光を避けた安全な場所で保管してください。
- 車に燃料を給油する際、携帯缶に保管した燃料から先に給油してください。
- 小出し分けなどして空気(酸素)に触れる機会が多いと、品質の変化が早まりますので、できるだけ一回に補給してください。
- ガンリン(軽油など)を長期間保管すると品質が変化することがあります。
- 品質が変化すると燃料としての役割がなくなりますので、早めに使用してください。
- 携帯缶が空になったからと言って「裸火」は絶対に近付けないでください。
- 車に搭載できるのは、金属製の携帯缶で、22リットル以下です。
- 車に搭載する場合には、携帯缶をしっかりと固定してください。
- 車に搭載した携帯缶から給油する場合、若しくは携帯缶へ給油する場合には、車から携帯缶を地面に降ろし、しっかりと接地したことを確認してから給油してください。(車に搭載したままで給油しますと、静電気の火花放電によりガンリン蒸気に着火する恐れがありますので大変危険です。)
- 給油する前に給油口より携帯缶内部の状況を確認し、錆など発生している場合には携帯缶の使用を中止してください。
- 内圧の変化によりガンリン携帯缶本体の変形・亀裂の恐れがありますので、時々(月に2~3回程度)エア調整ネジを緩め缶内の圧力を調整してください。長期間(概ね1か月以上)使用されずに保管される場合にはこまめに圧力調整を行ってください。
- ガンリン携帯缶にガンリンなどを入れて移動する場合には、タンクキャップ・エア調整ネジをしっかりと締めた状態で、ガンリン携帯缶をゆっくりと傾けていただき、タンクキャップ・エア調整ネジ・携帯缶本体より漏れの無い事を確認してから移動してください。万一漏れのある場合には使用を中止してください。
- ※ガンリン携帯缶を工場から出荷したときの状態は、タンクキャップ・エア調整ネジがゆるんだ状態で出荷しております。初めてガンリン携帯缶をご使用になれる時は、しっかりとタンクキャップ・エア調整ネジを締めてください。
- ※携帯缶より給油する際に、給油ノズルを給油口より10cm以上奥に入れないでください。給油口の細い車は給油ノズルが挟まって抜けなくなる恐れがあります。
- 40ℓ未満のガンリン又は200ℓ未満の軽油を、消防法令の基準に適合した容器で、保管することができます。
- 40ℓ以上200ℓ未満のガンリン又は200ℓ以上1000ℓ未満の軽油を保管する場合は、市町村の火災予防条例により、消防機関に届け出る必要があります。
- 200ℓ以上のガンリン又は1000ℓ以上の軽油を保管する場合は消防法により、市町村等の許可が必要です。



矢澤産業株式会社

〒399-3202 長野県下伊那郡豊丘村神稲9180番地
TEL <0265> 35-7633 FAX <0265> 35-7634

※本製品の仕様及び装備・カラー等は改良の為、予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。

裏面も必ずお読みください

ガンリン携帯缶用取替部品

タンクキャップ	エア調整ネジ	給油ノズル
TS-1	TS-2	TS-3

ガソリン(軽油など)の保管と取扱いの注意事項

I ガソリン携帯缶に給油するとき

- 1** 給油前に、パッキン・キャップ・エア調整ネジ・給油ノズル・本体に損傷、内部に錆び・異常等がないか確認してください。
※内部が錆びている場合は使用を中止してください。



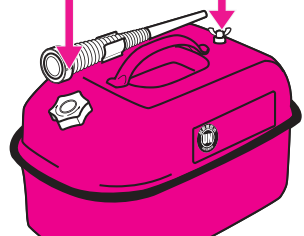
- 2** 従業員のいる通常のガソリンスタンドで給油してください。
※静電気にはご注意ください。



警告 セルフスタンドでは給油することができません。法律で禁止されています。

- 3** 給油後は、キャップ・エア調整ネジをしっかりとめて、もれがないか確認してください。

しっかりとめる



注意 給油量は、規定容量以内で給油してください。

注意 給油後は、中に何が入っているか誰が見ても判るように、付属のシール(ガソリン・軽油・灯油等)を目立つところに貼ってください。

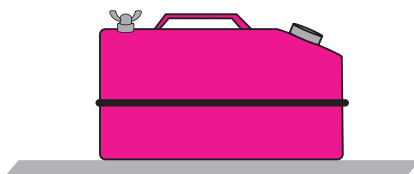


II 運搬または、運搬後保管するとき

- 1** 車載して運搬する場合は、必ずポリ袋に入れ、トレイ等の上に載せてください。
※荷室内で移動しないよう、しっかり固定してください。



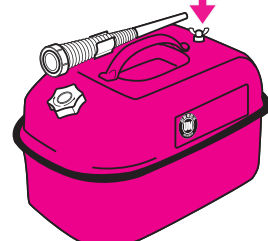
- 2** 安全で、傾きのない平らな場所で保管してください。



警告 直射日光が当たる場所・高温になる場所・雨雪が当たる場所・湿気の多い場所等はガソリンの揮発や缶本体の錆び等につながり大変危険です。お避けください。

- 3** ガソリンは揮発性が高い為、内圧の変化でガソリン携帯缶が変形・亀裂する恐れがあります。適時エア調整ネジをゆるめ、圧力を調整してください。
※圧力調整時も火気厳禁です。

ゆっくりと圧力を調整



注意 長期保管しないでください

・ガソリンも劣化します。
 長期保管したガソリンはエンジンに悪影響を及ぼす恐れがありますので使用しないでください。
 ・ガソリンにも水分が含まれています。長期保管をするとガソリン携帯缶の錆びの要因になります。錆びている場合は、使用を中止してください。



III ガソリン携帯缶からお車や発電機等に給油するとき (ウエス、手袋を準備しましょう)

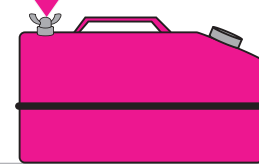
- 1** ガソリンは非常に危険な液体です。給油前に周囲の安全を必ず確認してください。給油されるお車・発電機等のエンジンを切ります。特に発電機や草刈り機等はエンジンを冷ましてください。
※静電気にはご注意ください。

エンジン
ストップ



- 2** 傾きのない平らな地面に置き、必ずエア調整ネジで内部の圧力を調整してください。

ゆっくりと圧力を調整

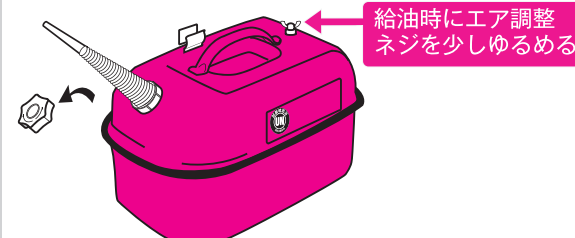


警告 内部の圧力を調整せずに給油キャップを開けると中身がふき出る恐れがあり非常に危険です。必ず圧力を調整してください。

- 3** ゆっくりとキャップをはずし、給油ノズルを取り付けしっかりとめてください。こぼしたり、人体に付着しないよう注意深く、慎重に給油してください。

※万が一の為、手袋等をはめることをおすすめします。

※誤ってガソリン等が皮膚に付いた場合は、直ちに石鹸等で十分に洗浄しましょう。



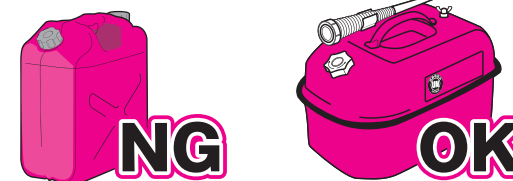
注意 給油後はウエス等できれいに拭き取ってください。

ガソリン携帯缶内にガソリンが残る場合は、キャップ・エア調整ネジをしっかりと確実にしめてください。
※空の状態では保管する場合はパッキン劣化を防ぐ為、少しキャップをゆるめてください。



ガソリン携帯缶の安全で正しい使い方

- 1** 灯油用ポリ容器にガソリンを入れてはいけません。



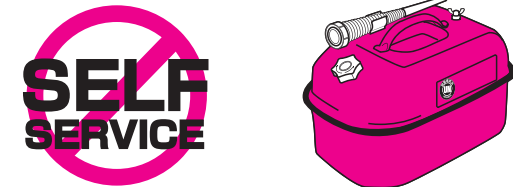
ガソリン容器(携帯缶)は、消防法により金属製容器であることなどの規格が定められており、ガソリン用として性能試験をクリアした容器のみ使用可能です。

- 2** ガソリンは-40℃でも気化し、引火、爆発の危険性があります。



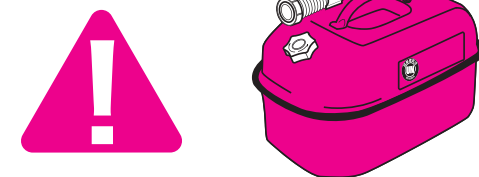
ガソリンはマイナス40度でも気化する性質があるため、一定期間の保管や、乗用車の室内やトランクに積んで搬送する場合は窓を開け換気して運転しましょう。

- 3** セルフガソリンスタンドでは利用客が自らガソリンを容器へ詰め替えることはできません。



セルフ方式の場合は従業員に依頼する、もしくはセルフ方式以外のガソリンスタンドにて購入してください。

- 4** ガソリンの容器への詰め替えや保管時の注意、取扱いについて



ガソリンは引火性が極めて高い物質であり、取扱いを誤ると非常に危険です。ガソリン詰め替え、保管時には容器製品の「取扱説明書」をよくお読みになり、正しくお使いください。